

編集
発行

金沢市広岡町イ25-10（石川県薬事センター内）
公益社団法人 石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

2019.1
No.80

いしかわ

県薬レポート



目次

1	新年のご挨拶	石川県薬剤師会	会長	中森 慶滋	2
2	新年ご挨拶	日本薬剤師会	会長	山本 信夫	5
3	特集 第51回日本薬剤師会学術大会金沢を終えて					
	(1) 学術大会を終えて			中森 慶滋	6
	(2) 第51回日本薬剤師会学術大会金沢（概要）			渡辺 誠治	9
	(3) 開会式でのあいさつ			中森 慶滋	15
	(4) 「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」を終えて			綿谷 敏彦	15
	(5) 「日本薬剤師会学術大会金沢」の苦労話？自慢話？			柏原 宏暢	16
	(6) 学術大会に分科会座長として参加して			澤野 和彦	20
	(7) 「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」を振り返って			森戸 敏志	21
	(8) 座長と口頭発表を経験して			高山 成明	22
	(9) 「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」スタッフ				23
4	提案：糖尿病連携手帳を利用した薬局薬剤師による糖尿病療養支援			橋本 昌子	24
5	石川県薬剤師会災害支援活動報告			津田 靖久	27
6	日本薬剤師会「次世代薬剤師指導者研修会」に参加して			坪内 清貴	29
7	主よ人の望みの喜びよ			中森 慶滋	31



新年のご挨拶

公益社団法人 石川県薬剤師会
会長 中森 慶 滋

新年あけましておめでとうございます。
昨年は日本薬剤師会学術大会の開催に際した
ただならぬご高配を賜りまして厚く御礼を
申し上げます。

激動の時代がついにやってまいりました。
これまでまだ先のこととのんびり構えて
いましたが、昨年10月29日の朝日新聞の
天声人語を読み僕の考えは崩壊してしま
いました。マイケル・ジャクソンが「BAD」
の公演の時着ていたジャケットが3,400万
円で落札されたとの報道は知っていたので
すが、そこには4,800万円である絵が落札
されたと書いてありました。

「模倣を重ねる先に、独自の美が生まれ
る。そう考えると、あるいは王道を行く作
品かもしれぬ。幅広い年代の肖像画
一万五千点を分析した人工知能（AI）が、
男性の肖像画を描いた。米ニューヨークの
競売に出品され4,800万円の値がついたと
いう。

・・・(略)・・・

AI画家に欠けるものがあるとすれば、
ゴッホが手紙に残したような情念であろ
う。「どんなにできが悪くっても、人間の
ものの何かを表現している作品を作りたい」
「そこに無限を描くのだ」（木下宏著
『ゴッホ〈自画像〉紀行』）精神の高揚、直
観、描く対象への没入……。芸術を芸術た
らしめる心の動きは人間だけが持つはず
だ。しかし、そんなふう書きながらも、

よぎってしまう疑問がある。本当に?」（天
声人語2018年10月29日）

人の心のありようを表現できるAIがこ
んなにも早く訪れるとは思いませんでした。
僕は最後に書かれた「本当に」の言葉
がしばらく頭から離れませんでした。日本
医師会は「人工知能（AI）と医療」とい
う報告書を昨年出していて、そこには次
のように書かれています。

--*-*

医療健康分野においても、人工知能の利
活用が今後飛躍的に進むと予想されてお
り、医師はその動向を把握し、適切に利
活用すべきである。生命科学と情報工学の融
合により、人工知能の医療利活用は、ゲノ
ム医療、医療情報、画像診断、創薬、医療
経済、看護、介護領域など多岐に広がり
期待される。遺伝的素因と環境的要因、遺
伝型と表現型の膨大な情報が併せて解釈さ
れることで、治療から早期診断・予防へ、
先制医療への移行が加速するであろう。



「人工知能（AI）と医療」（日本医師会
2018年6月）

--*-*-*

さらにレイ・カーツワイルが自ら言った
人類の知能を人工知能が凌駕する、「技術
的特異点(シンギュラリティ)」到来の予測
を2045年としていたものを、近年の講演で
は2029年に前倒ししたことを挙げていまし
た。

一方中国の中国国務院は次世代AI発展
計画を2017年に発表し、そこにはAIによ
る国力強化、経済成長を謳っています。

- ・AIの技術革新により世界の科学技術大
国となる
- ・AIにより経済成長の新しいサイクルを
創出する
- ・生活福祉の向上や、国家防衛力の強化、
国家安全保障の保護等にAIを活用する



中国の顔認証システム

2030年までにAIにかかる全ての分野で
世界のトップに立ち、中国を世界の主要な
AIイノベーションセンターにすることを
目標に掲げています。

具体的には、すでに顔認証の分野で世界
最先端を行き、高速鉄道に乗る時も顔認証
でパスすることができます。警察官は装着
したカメラとソフトウェアが搭載された特
殊サングラスにより、5万人が集まってい
るジャッキー・チェンのコンサート大観衆

の中から顔認証で犯人を見つけ出したそう
です。

また「薬ひょうたん」という医師の遠隔
診断を行うことができる電子端末が深圳の
街頭に置かれて、テレビ電話の対話で診断
されその場で処方箋が交付されます。



薬ひょうたんのタッチパネル

「サピエンス全史」の著作で一躍世界の叡
智として認められたユバル・ノア・ハラリ
はインタビューで次のように語っています。

--*-*

IBMのワトソンなどを用いたAIによる
診断を使えば、私はクリニックに行く必要
はなくスマートフォンでいつでもどこにい
ても診察を受けることができます。さら
には血圧や心拍数などを知らないところで
モニターするため、気分が悪いなど身体
の異変に私が気づく前にアラートを鳴ら
すことができます。すると処置がより簡
単になります。



(略)

今、臨床医の仕事の九十パーセントは診断が占めていますが、これはAIにとって代わられるでしょう。ほとんどの医師が二十年後、三十年後に、職を失う可能性があります。

「未来を読む」大野和基インタビュー編

--*-*

医師とAIの関係の段階を次のように予測することができます。

- ①医療従事者を補足する段階
- ②医療従事者と対等な関係にある段階
- ③医療従事者の能力をはるかに超え、医療従事者はAIに従う段階
- ④AIが中心となって患者とのコミュニケーションまで行う段階

医師会が取りまとめた報告書では④までのことには予測されていず、せいぜい②までのことと楽観視しています。

しかし4,800万円の絵を描くことができるAIの出現により、これから世の中は激動の時代へと入っていくでしょう。その時薬剤師ができることは何なののでしょうか。見極めていくことが必要だと思います。薬

機法の見直しを行うことを目的とした厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会では「法改正との関係性が深く、さらに検討が必要なもの」を整理し「薬局・薬剤師のあり方」では、薬局が持つべき機能の整理と法令上の規定を含めた位置づけや、薬局の管理者と開設者の責務が果たされるための仕組み・方策の検討を行っています。

変化する荒波にもまれながらも薬剤師が社会に果たす役割を見極め提示できる薬剤師会を学術大会が終わった今、目指していると考えています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



4,800万円で落札された人工知能が描いた絵



新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本信夫

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より日本薬剤師会の諸事業に格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、昨年6月、新執行部が発足いたしました。薬剤師の役割と薬局の機能の原点に立ち戻り、医薬品等の適正な供給体制構築に向けて会務を進めてまいり所存ですので、あらためましてよろしく願い申し上げます。

少子高齢化が加速する中、2025年に向けて進められてきた社会保障制度改革に続き、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えて国民皆保険制度の維持・継承と全世代型社会保障の構築を目指した取組が始まろうとしています。こうした中で薬剤師と薬局には、「かかりつけ」としての機能と役割を充実・強化し、各地域で構築される「地域包括ケアシステム」の一翼を担い、その役割を果たしていくことが強く求められています。

「経済財政運営と改革の基本方針2018」では、患者本位の医薬分業を実現し、地域の薬局が効果的・効率的に役割を果たすことができるよう調剤報酬のあり方を引き続き検討すること、セルフメディケーションを進めていく中で、地域住民の身近な存在として、健康の維持・増進に関する相談や一般用医薬品等を供給し、助言を行う機能

を持った健康サポート薬局の取組を促進することが示されました。薬剤師・薬局には、薬剤の調製などの対物中心の業務から、患者、住民とのかかわりの高い対人中心の業務に転換し、必要かつ適切なサービスを提供するとともに医薬品・衛生材料等の供給拠点として機能することで、地域におけるチーム医療の一員として地域医療提供体制に貢献することが求められているということです。

改正から5年目を迎えた医薬品医療機器等法は、薬剤師・薬局の基本的なあり方の見直しが検討され、医薬品の服用期間を通じた服薬状況の把握や指導を行い、必要に応じて医師等に情報提供するよう努め薬物療法の最適化に寄与することが薬剤師の職能であり、薬局の基本的機能であること、また、在宅医療への対応や関係機関等との情報連携に主体的な役割を担う薬局と高い専門性に基づく薬学的管理や特殊な調剤に対応できる薬局が有する機能、そしてその機能が患者・住民から容易に判断できる表示等について議論されました。一人の薬剤師が一つの薬局を開設する原則に立っていた現行の法体系では規制できないほど薬局・薬剤師を取り巻く環境は大きく変化してきました。今後法改正に向けた動きが始まります。薬剤師・薬局が我が国に導入されて130年が経過し、その間一貫して変わることのなかった法の基本的な原則につい

て、現状を踏まえ時代の変化に即した適切な規制を含む大改革が行われようとしています。本年は、国民・患者のニーズに的確に対応できる薬剤師・薬局の姿を描く上で重要な年になると考えます。これからの100年、200年を見通した的確な議論を進めなくてはなりません。

一方、保険薬局の指定に係る留意事項通知に伴うルール適用により、大学病院等による同一敷地内への薬局誘致が続いています。こうした動きは医薬分業の趣旨に反し、かつ、「患者のための薬局ビジョン」に示されたかかりつけ薬剤師・薬局の推進に逆行するものであり、留意事項通知が厳格に適用されることを引き続き強く求めていきます。また、本年10月に引き上げ予定の消費税については、診療報酬等に上乗せされている仕入れ税額相当分を上回る仕入

消費税額の還付が可能な措置を講ずることについて、医療関係団体とともに要望していきます。

社会保障制度改革が進む一方で、医療の高度化・複雑化などによる医療費の適正化が課題となっています。皆様におかれましては、薬物療法を効率的・効果的に提供し、地域包括ケアシステムの中で地域住民の生活を支援する地域社会のリソースとして、国民の健康寿命の延伸に貢献するかかりつけ薬剤師・薬局の推進に力を尽くしていただきますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、今後とも本会事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。

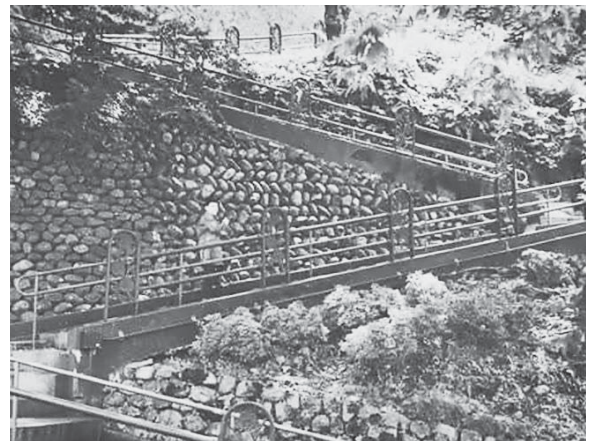
特集 第51回日本薬剤師会学術大会金沢を終えて

学術大会を終えて

石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

第51回日本薬剤師会学術大会が金沢で開催されました。石川県薬剤師会に関係する皆様方、関係団体の皆様方には、心温まるご支援やボランティアでのご協力などを賜りまして厚く御礼を申し上げます。大会は無事盛況のもと終わることができました。大会を振り返り、私が思ったことまた理解していることを書こうと思います。

開催にこぎつけるまでに4年に近い準備期間を要しました。まずは日本薬剤師会の



いまを生きる

学術大会をどのように理解するかということから始まりました。薬学会など他の学会はエビデンスをもとに普遍性を提示します。しかし日本薬剤師会の学術大会では科学の領域は比較的少ないのではと考えました。大会が目的とするものは薬剤師の意識の「変容」つまり「質的变化」をもたらすことなのではないだろうかと思ったのです。薬剤師の質が変わるような変化というのは、それまでの自分の考えを揺るがし、気付きを与え再構築するという変化を意味します。それを二日間という短期間でおこなうには「熱狂」が必要だと考えました。そこで過去に世界で起こった歴史やイベントを思い起こし、人々を「熱狂」へと導くには何が必要か様々な資料をもとに考えました。



制作委員会

それらに共通していたのは明確でシンプルなテーマが存在しているということでした。「人として」というのがまず浮かびました。それを思い続けていたところ、「薬剤師として」をそれに続けることにしました。しかしテーマを決めた時に大きな壁が出現しました。その言葉のイメージをビジュアル化する必要があったからです。これができなければ言葉に力を与えることはできません。そこでこれまで見てきた膨大な美術展やポスター展のパンフレット、商

業美術、コピー、そしてグラフィックアートが意味する宣伝の力を見ていきました。私はそこでプロパガンダの本質を見抜こうとしたのかもしれませんが。ポスター制作には約一年かかり100枚以上の試作と350枚の写真から生み出されました。デザイン会社は私の提示するコンセプトやデザイン、色、手の角度まで最後まで付き合ってくれました。いま思い起こすと、制作にあたり私が重要視したのは静謐さでした。静謐さには禅のイメージがあり、様々な思索が呼び起こされると感じたからです。

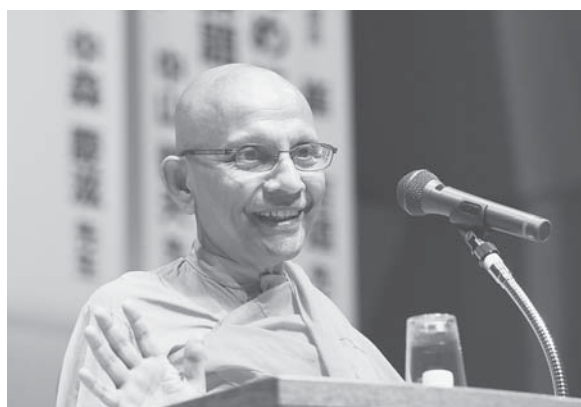
ビデオの制作には半年の思考時間をあてました。iPod AirのPVや映画「今を生きる」のセリフなどを参考にしました。これらビジュアルを提示することができたことで思わぬ効果を感じました。それを制作委員や薬剤師会会員がみな気に入るとともに、モチベーションがどんどん上がっていくのを実感したのです。



決起集会

形のない学術大会を視覚化するには骨格が必要でありました。四苦八苦の四苦である「生・老・病・死」の話に行く前に精神科医のビクトール・フランクルの「ロゴセラピー」に触れなくてはなりません。「ロゴ」とはギリシャ語で「意味」のことで、フランクルは人に降りかかってくる様々な「苦しみ」には何らかのその人に与

えられた「意味」が存在していると考えました。意味を理解することで人生を理解することができるかと精神治療を行いました。それにアルボムッレ・スマナサーラの仏陀が言った四諦を絡ませました。人生の本質は苦しみであって、苦しみがあるから人生は豊かになるのだということを「生・老・病・死」に意味を持たせようと思いました。



県民公開講座 アルボムッレ・スマナサーラ長老

様々な資料を制作委員会に提示したときは委員はみな戸惑ったと思います。なぜならば一見それは宗教的であり、哲学であって科学ではなかったからです。しかし委員たちは貪欲にそれらを面白がり吸収していききました。そうすると自律性が働きどんどん私の介入は減っていききました。

そのようにしてプログラムはできていきました。あるとき成功を予感したときがあります。9月4日台風21号が25年ぶりに非常に強い勢力を保ったまま日本に上陸し近畿地方を中心に大きな被害を出しました。18時30分ごろ金沢市の上空を通った台風はさらに風を強めていきました。商店は早々と閉店をし市内を通る車はほとんどなく、みなひっそりと台風が通り過ぎていくのを待っていました。テレビでは不要不急の外出は控えるようにと呼び掛けていました。しかしメールには予定通り開催すると書かれていました。会長室に早くに着いていた

私は数名のメンバーが来るだろうと思っていました。19時ごろからメンバーが集まり出してきました。気が付くと開始予定の19時30分にはすべての委員が出席をして熱い会議が始まりました。甚大な被害を出した大阪からコングレさんも出席していました。その日の昼に関西空港が冠水したというのに、すでにその時間には金沢に来てホテルの打ち合わせに飛び回っていたそうです。この情熱と熱気があればきっと大会は成功すると思ったものでした。

大会の運営では多くのご協力をいただきまして心より感謝しております。また予算が限られていることからボランティアを薬剤師会の会員や薬学生から募り運営を行ってもらいました。そのためかボランティア業務には皆心がこもり全員で成功させたいという気持ちが参加者に伝わったようです。

終了後、知らない人から大会を絶賛するメールをいただきました。メールの最後には「人として、薬剤師として一番目に大切なものを、私は金沢で見つけたように思います。」と書かれていました。また「成功をお喜び申し上げます。……お疲れのことと思いますのでしばらくはゆっくりとなさってください。」という長い文面のFAXを私の薬局に送ってきた方もいらっしゃいました。

大会を終了したいま考えますと、テーマ、ビジュアル、「生・老・病・死」の骨格が有機的に機能し全体を流れるトーンが人々の心の琴線に触れたのかもしれないと思います。

金沢でこのような学術大会を開催できたことで、先人たちが築きあげられたこれまでの努力が結実したような気がします。

最後に繰り返しになりますがすべての関係者に感謝するとともにお礼を申し上げます。

第51回日本薬剤師会学術大会金沢（概要）

1. テーマ：“人として、薬剤師として。”
2. 会 期：

2018年9月23日(日)・24日(月・祝)
3. 会 場：

石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ヴィサージュ、ホテル日航金沢、金沢市アートホール、ホテル金沢、アパホテル金沢駅前、大原学園金沢校、もてなしドーム
4. 参加者：

一般 8,266名
学生 215名（合計 8,481名）
5. 大会運営委員長：

公益社団法人石川県薬剤師会
会長 中森 慶滋
6. 大会運営スタッフ：428名
7. 開会式：9月23日 9:30～12:00
 (石川県立音楽堂コンサートホール)
 ファンファーレ：パイプオルガン
 (奏者：黒瀬 恵)
 表彰式：

(開会式第2部：10:25～11:00)

 - ①日本薬剤師会賞：6名
(本会前会長 能村 明文、他)
 - ②日本薬剤師会功労賞：10名
 - ③日本薬剤師会有功賞：1団体
能舞台：加賀宝生流「高砂」(シテ：佐野 弘宣、ワキ：北島 公之)
8. 特別記念講演：

(開会式第3部：11:00～12:00)
 「生物と無生物のあいだ」青山学院大学総合文化政策学部教授 福岡伸一先生(座長：本会会長 中森慶滋)
9. 特別講演：

☆特別講演1 「高齢者のポリファーマシー対策」東京大学医学部附属病院老年病科教授 秋下 雅弘先生(座長：金沢市立病院薬剤室長 河原 昌美)

☆特別講演2 「ここまできた薬によるがん治療」金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二先生(座長：金沢大学名誉教授 宮本謙一)

☆特別講演3 「人生の最終段階における医療と薬剤師の役割」医療法人社団裕和会長尾クリニック理事長 長尾 和宏先生(座長：北陸大学薬学部教授 石川 和宏)

☆特別講演4 「薬剤師がデータを正しく活用するために：ビッグデータ・AI時代の課題と期待」京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野教授 中山健夫先生(座長：金沢大学附属病院薬剤部長 教授 崔 吉道)

☆特別講演5 「薬剤師行動規範の意味するところファーマシューティカル・ケア 薬剤師の目的とは」公益社団法人日本薬剤師会会長 山本信夫（座長：本会会長 中森 慶滋）

10. 特別企画：

9月23日(日) 17:10～18:10

(石川県立音楽堂コンサートホール)

☆ピアノ演奏

ゴルトベルク変奏曲 月の光、他

(奏者) 平野 加奈 (ピアニスト)

11. 分科会：

分科会①「目に見える学校薬剤師活動」

分科会②「保険薬局でできる高齢者の腎臓病対策」

分科会③「医療ビッグデータの薬局での利活用と今後の展望」

分科会④「妊婦・授乳婦と胎児・乳児の安全と安心を支える薬剤師業務～添付文書プラスαの臨床能力～」

分科会⑤「薬学的知識を緩和医療にどう活かすか」

分科会⑥「地域で看取るということ」

分科会⑦「薬局薬剤師の研究のエビデンス化（論文作成）に向けた第一歩」

分科会⑧「人を救うということ、命を救うということ」

分科会⑨「老化は病気か～認知症やフレイルの早期発見における薬剤師の役割～」

分科会⑩「人生の最終段階をどこで過ごすか」

分科会⑪「アスリートにとって大切なものは」

分科会⑫「老いを支える～地域包括ケアにおける薬局・薬剤師のあり方」

分科会⑬「がん医療における分子標的薬のマネジメント－薬剤師はどう対応するか」

分科会⑭「OTC医薬品を活用したプライマリケア」

分科会⑮「これからの医薬分業を考える－海外を参考として－」

分科会⑯「その人らしく最期を迎えるために一病院薬剤師から立場を変えて関わる」

分科会⑰「障がい者と呼ばれる人々に対する無意識的なバリアはどこから作られているのか？－知り、考え、行動するために－」

分科会⑱「こども達のために明日役に立つこと－薬剤師でこども達を守ろう－」

分科会⑲「今日から実践できるポリファーマシー対策」

分科会⑳「AMR対策これからどうする？～薬局薬剤師の役割を考える～」

分科会㉑「保険薬局での新しい取り組み～保険薬局のモニタリングの実際と薬薬連携～」

分科会㉒「速やかな対応が迫られる運転注意薬の説明指導」

分科会㉓「卒後初期研修から専門性獲得まで」

分科会㉔「GDP（医薬品の適正流通基準）の国内対応について～その展望と課題 製造－流通－医療現場まで～」

12. 一般演題（口頭発表）：

9月23日 14:00～18:10

9月24日 9:00～12:20

13. 一般演題（ポスター発表）：

9月23日 14:00～18:15

9月24日 8:30～11:30

14. ランチョンセミナー：

①「日経DIクイズで学ぼう！ ～皮膚疾患の服薬指導のツボ～」(日経BP社/株式会社日経HR)

②「漢方医学について薬剤師と医師とで共有したいこと」(株式会社ツムラ)

③「閉経後女性のホルモン補充療法を考えるーエクオールとHRTの使い分けー」(大塚製薬株式会社)

④「その方、骨粗鬆症ですか？ー簡易スクリーニング法の開発と医薬提携ー」(中外製薬株式会社)

⑤「バイオ医薬品・バイオシミラーに関する現状とこれからの対応」(ファイザー株式会社)

⑥「バイオ医薬品の適正使用に必要な基礎知識」(アッヴィ合同会社)

⑦「地域連携に求められるかかりつけ薬局・薬剤師の役割～ポリファーマシー対策の共有～」(バイエル薬品株式会社/東日本メディコム株式会社)

⑧「目に見えないストレス「眠り」に迫る～かゆみの解消にむけた皮膚科医の視点～」(資生堂ジャパン株式会社)

⑨「メトホルミンの温故知新～薬剤師の皆様にお伝えしたいこと～」(大日本住友製薬株式会社)

⑩「今シーズンから変わるインフルエ

ンザの対応」(塩野義製薬株式会社)

⑪「ジェネリック医薬品への更なる期待～後発医薬品安心使用促進の取組みとAGの役割～」(第一三共エスファ株式会社)

⑫「2型糖尿病治療薬と皮膚障害を考える」(アステラス製薬株式会社/寿製薬株式会社)

⑬「大腸癌Late lineの治療戦略～実臨床におけるロンサーフと薬剤師の役割～」(大鵬薬品工業株式会社)

⑭「携帯電話の電磁波って危ないの？ーWHOの見解を紹介しますー」(一般財団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター)

⑮「てんかんの最新治療」(エーザイ株式会社)

⑯「関節リウマチにおけるエタネルセプトBSの開発の経緯と期待される効果」(あゆみ製薬株式会社)

⑰「冠動脈疾患治療における抗血栓療法の実状と対策」(武田薬品工業株式会社)

15. 教育セミナー：

①「薬局薬剤師の認定がん診療連携ネットワークナビゲーターの育成制度について」(日本癌治療学会)

②「人によりそう服薬指導のすすめ」(人財教育家・メンタルコーチ 飯山 暁朗)

16. 県民公開講座：

9月24日 14:00～15:00

(県立音楽堂コンサートホール)

「身体の症状は緩和、こころの病は完治」(講師)スリランカ上座仏教(テーラワーダ仏教)長老：アルボムツレ・スマナサーラ(座長：聖興

寺住職 中野 素)

17. 次回開催案内：

第52回日本薬剤師会学術大会(山口)

1) 会 期：

2019年10月13日(日)・14日(月・祝)

2) 会 場：

下関市民会館・海峡メッセ下関・
下関市生涯学習プラザ、他

3) テーマ：“原点”

〈その他の企画〉

1. 「第51回日本薬剤師会学術大会

ウエルカム レセプション」

日 時：

平成30年 9月22日(土) 17:30~19:00

場 所：ホテル金沢16F ラズベリー

参加者：約140名

(日本薬剤師会・都道府県薬剤師会会長
と理事、他)

演 奏：

オーケストラアンサンブル金沢「弦楽四
重奏」(チェロ：大澤 明、他)

2. 「第51回日本薬剤師会学術大会懇親会」

日 時：

平成30年 9月23日(日) 18:30~20:15

場 所：ホテル日航金沢 4 F 鶴の間

参加者：約696名

演奏1：生田流正統派邦楽会

(横笛：藤舎 眞衣、箏：北村 雅恋)

演奏2：篠崎 文 with SWING46

(JAZZ BAND)

-----○-----○-----

☆石川県関係者の一般演題発表

〔口頭発表〕

①てまりグループにおける在宅医療への関
わり

(スパータル在宅推進室 山口 弘美)

②がん患者への服薬指導の標準化を目指し

た『かがやき薬薬連携研究会』の取り組
み(メディ菊川薬局 北山 朱美)

③街の薬局活用術 (ID-Link 参加で薬局
業務はこう変わる)

(白山ののいち支部 吉田 誠)

④ヒゲナミン含有医薬品・食品を摂取した
アスリートはドーピング違反となるか
(スポーツファーマシスト・薬育推進委
員会 高山 成明)

⑤アスリートがサプリメント購入時に重視
していることは何か？

(穴水あおば薬局 岡田 政彦)

⑥より良いかかりつけ薬局を目指して「骨
密度測定と微小循環の観察による健康寿
命の伸展」(佐倉薬局 佐倉 有紀)

⑦検査値から推定された腎機能を薬剤管理
指導に活かした症例

(平和町あおぞら薬局 石井 寛子)

⑧認定こども園での学校薬剤師の取り組み
とこれからの役割

(学校薬剤師部会 伊藤 宏樹)

〔ポスター発表〕

①ベルソムラ錠に対する新薬評価の実践と
使用後成績調査

(菜の花薬局 柴田 郁弥)

②薬局薬剤師を対象とした経口糖尿病薬の
配合剤に関する意識調査

(北陸大学薬学部 毎田 千恵子)

③冠動脈ステント留置患者におけるステ
ント血栓症予防を目的としたDAPTの継続
期間に関するシステマティック・レ
ビュー

(北陸大学薬学部 大本 まさのり)

④メマンチン塩酸塩錠服用患者への体系的
服薬指導ツールを用いた服薬指導の標準
化と服薬アドヒアランス向上への取り組
み

- (株式会社クスリのアオキ 小出 裕也)
- ⑤「くすり教育」を取り入れた「薬物乱用防止教育」の実践(その2)
(北陸大学薬学部 折戸 渚紗)
- ⑥クリッカー(授業応答システム)を用いた「薬物乱用防止教育」における双方向授業の実践(その4)
(北陸大学薬学部 杉野 佳奈)
- ⑦ロールプレイを取り入れた「薬物乱用防止教育」の実践(その2)
(北陸大学薬学部 元村 俊介)
- ⑧石川県内の薬局グループが20年間取り組んできた地域住民の健康寿命の延伸をめざした健康フェスタのまとめと報告
(日本専門薬局同志会近畿第二連合会石川部会 杉原 正人)
- ⑨地域におけるインフルエンザ罹患者の予防接種率および感染経路の調査と、小中学校への啓蒙活動効果
(朝霧台あおば薬局 石川 典子)
- ⑩地域包括ケアにおける多職種連携へ医療・介護と薬剤師を結ぶ「実験お薬教室」の有用性
(羽咋郡市薬剤師会 笠原 友子)
- ⑪在宅患者の服薬コンプライアンス改善への取り組み
(てまり薬局 佐藤 晃)
- ⑫軽度認知症患者の自発的な服用に服薬支援機器が有用であった一症例
(鞍月あおぞら薬局 横野 里奈)
- ⑬水泳競技における石川県代表選手と全国選手とのアンチ・ドーピングに関する意識の比較
(北塚らいふ薬局 丸一 泰雅)
- ⑭高血圧予備群患者に対する受診勧奨への取り組み(血圧計の貸し出し)
(てまり薬局 西 美佐)
- ⑮てまりグループにおけるインターンシップへの取り組み(第1報)ー業務体験後の評価と参加者の意見についてー
(てまり野々市薬局 小林 瞳)
- ⑯薬剤師・薬学生を対象とした在宅医療推進のための地域における多職種連携ワークショップの実施
(金沢大学医薬保健学域薬学類 浦田 航希)
- ⑰温経湯の服薬状況と薬効(月経不順改善および体温上昇効果)との関連性の調査
(泉が丘あおぞら薬局 松井 聡子)
- ⑱1人薬剤師薬局における、調剤監査装置(audit)導入前後のインシデントの傾向と業務の状況。
(フロンティア津幡薬局 吉田 泉介)
- ⑲てまり辰口薬局の取り組みー地域高齢者を対象とした栄養学講座Q&Aー
(てまり辰口薬局 山吹 美子)
- ⑳副作用調査1年間のまとめ
(輪島菜の花薬局 中谷 夢美)
- ㉑服薬指導における薬剤師の取り組みー尿の色調ツールの活用についてー
(てまり古府薬局 北島 比香里)
- ㉒患者さま満足度アンケート結果から
(菜の花薬局 中谷 浩子)
- ㉓「くすりと健康フェア2017(福井)」ー「良い薬」と「悪い薬」を考える2017 出展の報告
(北陸大学薬学部 木村 千尋)
- ㉔中学校「くすり教育」の義務化に伴う新しい薬物乱用防止教育の構築と実践
(北陸大学薬学部 塩原 拓真)
- ㉕「喫煙・飲酒防止教育」を導入した「薬物乱用防止教育」の実践(その2)
(北陸大学薬学部 中村 研斗)
- ㉖到達目標:「くすり教育」を取り入れた

- 「薬物乱用防止教育」が実践できる
(北陸大学薬学部 宇佐見 則行)
- ②⑦患者服用薬の残薬整理、能登半島一薬局
の実践例
(笠原健招堂薬局 笠原 秀行)
- ②⑧栄養士と連携した健康支援プログラムの
作成と相談会の実施によるかかりつけ薬
剤師普及の取り組み
(健康情報拠点薬局推進事業委員会 吉
野 貴大)
- ②⑨精神神経疾患における微量元素(鉄、亜
鉛)製剤の推移と服薬調査
(むさしまち薬局 源 秀洋)
- ③⑩健康サポート薬局主催の健康フェアにお
ける活動報告とアンケート調査結果
(北塚らいふ薬局 草場 大作)
- ③⑪検査値が記載された処方箋を用いた化学
療法の副作用管理について
(鞍月あおぞら薬局 早瀬 恵里)
- ③⑫地域の薬局薬剤師が会社の枠を越えて協
力し穴水町健康推進課と協働で継続して
取り組む健康教室
(能登北部支部穴水班 宮本 啓悟)
- ③⑬地域包括ケアへの薬剤師の関わり
(輪島菜の花薬局 中村 修二)
- ③⑭地域を支える薬局の機能とは～食事・健
康・服薬をサポート
(瑠璃光薬局 佐藤 里美)
- ③⑮薬剤師による褥瘡薬物治療を実践するた
めのワークショップ
(金沢大学医薬保健学域薬学類 玉田
実花)
- ③⑯自動分包機による調剤薬の分割・分包性
と質量均一性に関する検討
(アカンサス薬局 玄師 健人)
- ③⑰薬局実務実習における在宅業務の重要性
についての考察
(北塚らいふ薬局 木村 安佳莉)
- 以上(作成:渡辺 誠治)

開会式でのあいさつ

石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

ここにお集まりになられた薬剤師の皆さま方また関係者の皆さま方、わたしは今日、謙虚な思いでこの大会を開催することができたことに喜びを禁じえません。

ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に厚く御礼を申し上げたいと思います。そして亡くなられた石川県薬剤師会徳久元会長、本大会を誘致されました能村元会長、中村前会長に感謝を申し上げたいと思います。能村元会長と中村前会長ご両人は今ここに



会長あいさつ

いらっしゃっています。

そして日本薬剤師会の皆様方、すべての石川県薬剤師会の関係者に感謝を申し上げたいと思います。

私たち薬剤師は今、変化の真ただ中にあります。そして変化の波に飲み込まれ翻弄されています。しかし今日この日、私たちが集ったのは不安より希望を、そして薬剤師のもつ力を医療の中で発揮するためです。なぜなら私たち薬剤師は与えられるものではなく、与えるものであることを知っているからであります。

「希望」

それは何もないところから引き出されるのではなく、日々の業務を愛することで生み出されるものであります。

「人として、薬剤師として。」

薬剤師とは何者であり、どんな未来が待っているのか考えたいと思います。そして社会に貢献する覚悟を持っていること

を、素晴らしい贈り物を未来の薬剤師に届けようとしたことを、希望と良識を胸に抱いてこれからの二日間を心に刻みたいと思います。

さあ、始まりました。日本薬剤師会学術大会がすべての皆様方にとって実り多いものになれば、日本薬剤師会そして石川県薬剤師会の喜びとするところであります。



開会宣言 副会長 崔 吉道

「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」を終えて

会場運営担当 石川県薬剤師会 理事 綿谷 敏彦

「51,585」、これは9/22(土)23(日)24(月・祝)の3日間における私の歩数です。我ながらよく歩いたな〜って感じです。今回の学術大会の特色の一つとして「コンパクトな会場」が挙げられていました。確かに地図上ではそうですが、実際には上下の動きが半端なかったです(笑)。それぞれの会場の1階エントランスまではすんなり行けるのですが、そこからが大変でしたね。初日のランチョンセミナー終了直後の大混

雑、あわや大惨事になる会場もありましたが、その場の担当の先生方やホテルの方々の迅速かつ適切な対処で難を逃れることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

思い起こせば2014年8月1日、この時すでにオルガニスト黒瀬恵さんに「4年後の2018年9月23日(日)に石川県立音楽堂コンサートホールでのオルガン演奏をお願いしたいです!」と伝えておりました。会場と

してコンサートホールを使うのであれば、パイプオルガンによる演奏を全国から来た薬剤師に聴いてほしいと思ってのことでした。その後何度か打ち合わせを重ねて、当日を迎えました。

開会式での開会宣言までの流れ、導入をどのようにすればよいのか！を頭の片隅に絶えず携え、3年前の鹿児島大会、2年前の名古屋大会、そして前年の東京大会に参加していました。それぞれ特色ある演出をされており、それらも参考に徐々に金沢大会でのイメージが固まっていったような気がいたします。そのイメージを形にするた

めにリハーサルがあるとは言え、実質的には本番一発勝負。ちょうど上映されていた映画「カメラを止めるな！」を観て、始まってしまったら前に進むのみ！と、いい意味で開き直ることができていました。

今回の運営が滞りなく進んだのは、それぞれの持ち場でそれぞれの役割を果たしてくださった石川県薬剤師会メンバー皆さまのおかげです。心より感謝いたします。このパワーをこれからの活動に活かしていければと思います。

「日本薬剤師会学術大会金沢」の苦労話？自慢話？

石川県薬剤師会 副会長 柏原 宏暢

県薬レポートNo. 80が「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」を特集することになり、本大会の制作委員会のメンバーである私は、企画運営に携わった立場からウエルカムレセプション、開会式、懇親会等の準備や当日の雰囲気について裏側からお話しし、スタッフ・ボランティアとして活動していたために見損なった方々に少しでも伝えられたと思います。県薬の事務局には、大会関係者が私的に撮影したDVDもありますので、機会を作ってお越してください。

最初はウエルカムレセプションです。学術大会の前日の午後から都道府県会長会議が開催され、夜にはウエルカムレセプションをホテル金沢のラズベリーにおいて県薬主催で開催しました。アトラクションは、「オーケストラアンサンブル金沢」からチェロの「大澤明」さんをお招きして、弦

楽四重奏の優雅な調べと石川の地酒に酔い痴れてもらいました。さらに、加賀と能登の山海の珍味でもてなし、16階から南北に広がる金沢の新旧の街並みを眺めていただき、明日から始まる学会への期待を膨らませてもらいました。

次は開会式です。制作委員会では、県立音楽堂での開会式なので自慢のパイプオルガンの出番だと提案がありました。また、オルガニストは、地元金沢を代表する「黒瀬恵」さんが推薦され、快く依頼を引き受けていただきました。その曲目、演出についても黒瀬さんと県薬との打ち合わせが大変盛り上がり、発想を飛ばしました。まず、開場時からプレ演奏としてパイプオルガンを参加者に十分聴いてもらい、主催者、来賓が壇上にそろったところで崔先生の登場による開会宣言となるわけですが、

そこにパイプオルガンのファンファーレで会場を驚かせてスタートすることにしました。さて当日ですが、いきなりのパイプオルガンによるレクイエムのFULL演奏の迫力に会場に広がった「おお♪(ノ)‘▽` (ヾ)――」とのどよめき、来賓者や日薬役員の思わず後ろを振り返った姿、知事が得意満面(※ 且 ※)の笑みを浮かべて隣の来賓にパイプオルガンの説明をしている様子を見て、ヤッター♪♪v(〇〇)v♪♪とこころの中で叫びました。

また、開会式の司会は、今までの大会ではほとんどが女性の司会者で華やかさを演出していましたが、あえて男性の司会者を起用し落ち着いた感じを演出するため、主にテレビ金沢で活動されているフリーの「平山貴人」さんをお願いしました。前日のリハーサルでは、あんなに準備してきたにもかかわらず県薬側の不手際が目立ち、誰も口には出しませんでした。あたりには本番がどうなるか不安が漂っていました。しかし、平山さんは、問題点を明らかにして改善を図るためのリハーサルだと前向きにとらえられ、また、金沢舞台さん、ゼストさん、コングレさんは、十分に行けると手ごたえを語ってくれました。そして迎えた本番では、平山さんはタキシード姿がよく似合い、声は落ち着き払ったバリトンで会場内に響き、シナリオの硬すぎる言い回しも滑らかなものに代え、非常にスムーズな進行を図っていただき、全体として、薬剤師会の風格を感じさせる式典になりました。さすがはプロのアナウンサーでした。

表彰式後のアトラクションを何にするかについては、一番悩みました。金沢で開催した大会を記憶に留めていただくため

に、いろいろあげられた候補の中から加賀宝生流の能にすることにしました。演能は、金沢の宗家といえる方から、宝生流能楽師の「佐野弘宜」さんを紹介してもらいました。さらに当代一流の方々（佐野玄宜、渡邊茂人、高橋憲正、北島公之、江野泉、住駒幸英、飯島六之佐、麦谷暁夫の各氏）を揃えていただきました。演目については、能村元県薬会長をはじめとする受賞者を愛でる意味で「高砂」を舞ってもらうことにしました。シテ装束は、宗家を通じて石川県立能楽堂に展示されている由緒あるものを特別に借り受けることができました。また、金沢舞台やゼストの方々には、無理を言って本格的な金屏風、シテ柱、培じ台（太鼓の皮を熱で乾燥させてよく響かせるための道具）など煩雑な手配をしていただきました。学術大会の開会式に出席された方々や受賞者の皆様にも、本物の加賀宝生流の能を見ていただくことができ、格調の高い思い出に残る金沢大会の開会式になったと思います。

本番では個人的に肝に銘じていたことがあります。それは、今年の夏に大変話題になった映画「カメラを止めるな！」です。生放送は、スタートしたら何が起こっても機転を利かし、臨機応変、クソ度胸で、現場を回すことです。準備中は脚本家、助監督、人さらいまでこなし、当日はディレクターを務めた綿谷先生、さらに橋本先生をはじめとする運営担当スタッフの皆さん方の手に汗を握る緊張が伝わってきました。また、その舞台裏での活躍は、来賓や受賞者等の受付から接待、誘導に至るまで見事なものでした。お疲れさまでした。

三つ目はホテル日航での懇親会です。昨年東京大会の懇親会では、実行委員長の

挨拶中あまりのざわめきの大きさに聞き取れなかったことに対して、日薬の山本会長が懇親会場にいる日薬会員に叱責していたことを悪い印象として覚えていました。そこで、石川県の乾杯条例を説明してウエルカムドリンクを止めることにしました。また、開会のスタートは、ライトダウンでいったん会場を真っ暗にすることにより、会話を中断させ、静かになったところで「藤舎眞衣」さんの笛で始めることにしました。藤舎さんの笛は、風を切るような鋭い響きで、会場の空気を一変させました。2曲目は、「北村雅恋」さんの琴との協演です。明るく静かに澄んで懐かしい横笛の調べ、箏の少しは甘えているようでありながら、きびしく深いものを湛(た)えている調べ、二人により夢のように美しいが現実のようにたしかな調べが奏でられ、そして加賀友禅を身にまとった二人の美しい女性に目を楽しませてもらえました。それは、その後の主催者や来賓の挨拶にも影響を与え、品格のある、ユーモアに富んだ挨拶が続きました。さらに「本田あきこ」さんにもうまいタイミングで挨拶をいただくことができました。

司会は、石川テレビやテレビ信州のアナウンサーでフリーの「竹内彩華」さんをお願いしました。竹内さんは、素敵な女子アナなので、「金沢大会のプロモーションビデオに出演されている薬剤師の方ですね」と参加者から勘違いの声をかけられていました。また、頭が柔らかく回転が速くて語彙が豊富なので、準備したシナリオより上手にホテルの自慢料理や加賀を代表する8種類の日本酒も説明していただきました。また、予定のない飛び込みの政治家の突然の挨拶にも見事に対応し、懇親会全体を彩

り華やかに仕切っていただき、参加者全員が満足できるものになりました。

さて、懇親会のアトラクションですが、喧騒の中でも聴けるジャズにすることにしました。バンドは、「篠崎文 With スイング46」で、ピアノ、ベース、ドラム、アルトサックス、テナーサックス、バリトンサックス、トランペット、トロンボーン、ボーカルの編成です。学会の前にボーカルの篠崎文さんがオーナーであるジャズクラブ「リバーサイド(金沢市片町)」に中森会長ら有志で足を運び、下見で即、お願いしてきました。当日のリハーサルでは、下の階のシンポジウム会場から音が大きいと苦情が入り、音合わせが十分にできない想定外のことが起こりましたが、さらにもう一つの想定外がありました。懇親会の演奏中に中森会長が飛び入りで参加し、得意のスタンダードナンバーを歌ったことです。

追加で企画運営以外のこともお話しします。ランチョンセミナーを集めるのには随分と苦勞しました。今年は金沢で4月に日本薬学会、6月に日本病院学会と大型の学会が重なり、スポンサーも疲弊していた中で、17社の申し込みをいただき、約4,000人の参加がありました。あらためてメーカーの皆様ありがとうございました。(乙田先生、本当にお疲れさまでした。)また、出展企業114社分の展示場を駅周辺で確保することとその借上げ料の高さには閉口しました。(交渉に当たられた渡辺先生、お疲れさまでした。)

分科会に関しては、シンポジストや座長の方々に著名な方にもかかわらず日薬の規定で随分と安い謝金でお願いしたこと、会員の方には謝金なしでお願いしたことに、今でも大変恐縮しています。担当した分科

会では、全国に散らばる薬局の地上の星たちにシンポジストになってもらうことにしました。砂の中、風の中、草原、街角、崖の上、水底を探し回ったところ、いましたよ、スバルが、銀河が、ペガサスが、ヴィーナスが。そして、金沢大会のシンポジストとして薬局の先進的な取り組みを披露していただき、座長の古川裕之先生の上手な盛り上げもあり、フロアーの方と活発な質疑が交わされたことは、少ない参加者でしたが、それぞれが持って帰るものも大きかったように思います。全国デビューを果たした薬局の先生方が、地上の星ではなく、今後は全国の空で輝きを放たれることを願っています。さらに参加者がその後について、ジュピターとして、シリウスとして輝いてほしいと願っています。

県民公開講座が終わって立ち上がった時に、東京から参加していた知り合いが後ろから話しかけてきました。『「福岡伸一」先生の特別講演「生物と無生物のあいだ」、「生老病死」に関連付けられたシンポジウム、特別企画「平野加奈」さんのピアノ「ゴルトベルク変奏曲」、「スマナサーラ」長老の県民公開講座「身体の症状は緩和、こころの病は完治。」まで、人として何ができるかというテーマの一貫性を感じた。また、大会中に訪れた「鈴木大拙」館では、「知る」ことに始まり、「学ぶ」ことを通し、「考える」ことに至る3つの行動を展開する構成になっているが、まさに金沢大会に通じるものがある。今回の学術大会は、他の学会に参加しても絶対味わえない「思索」する場になった。本当にありがとう』と言ってもらえました。

大会が成功裏に終了できたのは、これもひとえにボランティア・スタッフとして大

会を支えていただいた県薬会員の皆様方の献身的なご協力があったからこそ、あらためて感謝申し上げます。会場等の選定（KKR金沢、金沢商工会議所、しいの木迎賓館、ポールボキューズ、21世紀美術館、五十間長屋等々の候補）に力を尽くしていただいた企画担当の直田先生、今庄先生ありがとうございました。アトラクションの選定（素囃子、加賀踊り、加賀豊年太鼓、御陣乗太鼓、炎太鼓、加賀鳶、加賀水芸、加賀万歳、ベリーダンス、ポールダンス、フラダンス、マジック、ものまね、大道芸、ばあちゃんコント等々の候補）にいろいろと知恵を絞り、アドバイスをいただいた石川先生、渡辺先生ありがとうございました。もちろん、コングレのキレキレの渡辺さん、気遣いのできる池内さんがいなかったら絶対運営できなかったと思います。誠にありがとうございました。また、学術大会の発表者や参加者の皆様が、「生老病死」に沿ったプログラムに参加していただき、「人として、薬剤師として」何かヒントを得て帰られたならば、石川県薬剤師会も苦勞の甲斐があったといえます。



分科会21・座長 右 副会長 柏原 宏暢

学術大会に分科会座長として参加して

石川県薬剤師会 理事 澤野 和彦

今回、金沢では初となる学術大会において、北陸病院薬剤部長の地野先生と分科会の座長としてご一緒させて頂きました。

分科会4「妊婦・授乳婦と胎児・乳児の安全と安心を支える薬剤師業務～添付文書プラスαの臨床能力～」は、前回の東京大会でもたくさんの方が聴講された分科会でもあり、座長としての不安を抱えながら、半年ほど前からメールなどで、4名の演者の方々と連絡を取り合い、参加者の皆さんに喜んでもらえるように、詳細を詰めて準備を進めて参りました。

当日は、開始前に軽い食事をしながら事前打ち合わせをいたしました。緊張のあまり食事があまり喉を通らないほどでした。開始時間がせまる中、別の階の会場へ向かいましたが、フロアは大勢の参加者であふれ、なかなか会場の中に入れないほどでした。600名収容の会場（ホテル日航金沢4F鶴の間AB）はすでに満席となっており、約200名の方は立ち見という状態で、計約800名の方々が所せましと詰めかけていらっしゃいました。

虎の門病院林昌弘先生の基調講演が始まると、熱心にメモを取る方やうなづく方など、参加者の方々がそれぞれ食い入るようにして聴講する姿が印象に残っています。引き続き、共立習志野台病院鈴木典子先生、愛育病院伏見友里先生、愛育会高槻病院手島慶子先生のお話が終わった後の質疑応答でも沢山の方々からの質問があり、演者の先生方が丁寧にお答えになっていまし

た。この分科会の為の事前準備から始まり、演者の先生方にご協力を頂いた事により予定通りの時間に終える事が出来た時に、やっと肩の荷が下りた思いをいたしました。

今回の大会が、石川県薬剤師会の次世代を担う薬剤師達との「架け橋」になり、私たちからのメッセージになれば幸いですし、そして何より、大会参加や企画・運営を通じて、石川県薬剤師会や関係の皆さんと一体感が生まれた事に感謝をいたしております。

最後に、学術大会を薬剤師として参加そして運営スタッフとして協力して頂きました会員の皆様、医療事務の皆様、薬学生の皆様、卸の皆様、ご協力頂きました企業様そして学術大会関係者の皆様に感謝を申し上げます。本当に有難う御座いました。

私の大好きな「相田みつを」さんの詩です。「いまからここから」

「第51回日本薬剤師会学術大会金沢」を振り返って

石川県済生会病院 薬剤部長 石川県薬剤師会 理事 森戸 敏志

今回、金沢で初めて開催された本学術大会に携わる機会をいただきましたので、スタッフ、参加者、座長と色々な立場から感じた事柄を報告いたします。

初日朝、スタッフウェアに着替えて、「もてなしドーム」でのランチョンセミナー受付の手伝いに行きました。当日配布分の行列整理にあたり、「最後尾」のプラカードを掲げて、参加者の様子を伺っていました。初めは数メートルの短い列が、新幹線が到着するタイミングに合わせて、どんどん伸びて行きました。あっと言う間に長蛇の列となり、現在何人の列になっているのか、もはやカウントできず、準備した当日配布分で足りるのか、不安を感じているところに、「まだ整理券、大丈夫ですか？」と聞かれ、ちょっと答えに窮した事がありました。「数取器でカウントしておくべきだった」と後悔し、また、一部のランチョンセミナーの当日券が余っている事が妙に気にもなり、スタッフ側になって大変さに気付かされた事が多々ありました。

ランチョンセミナー、分科会では座長も務めさせていただきましたので、会場全体を見渡せて、参加者の様子を伺う事ができました。限られたセミナー、分科会ではありましたが、どの会場も熱心に聴講する様子が見られました。会場が中規模だった事もあって、ほぼ満席、一部には壁際に立ちながら熱心にメモを取る参加者もいました。あまりの参加者の多さに、ランチョンセミナー終了後には会場出口が人だかりと

なっていました。次の分科会への移動に難渋しましたが、なんとか開始間際に滑り込む事ができました。分科会が終了してからも、次の分科会の準備にきたスタッフを待たせて、演者に質問する場面が散見され、このような光景からも参加者の熱量を感じました。

二日目は、学会スタッフとして、分科会の座長や講師の案内と控室での対応にあたりました。ご挨拶をしながら、多くの先生より前日の開会式や福岡先生の特別記念講演から始まり特別企画のピアノ演奏で終わる一連の構成に賛辞のお言葉をいただきました。

音楽堂コンサートホールでの開会式などには参加が叶いませんでしたが、お礼の言葉をお返ししながら、「金沢らしい日薬学術大会」に共感いただけた事を強く感じました。

貴重な経験させていただきありがとうございました。

座長と口頭発表を経験して

石川県薬剤師会 理事 高山 成明

アンチ・ドーピングへの関わりは薬剤師の職能の一つとして重要なものです。日本アンチ・ドーピング機構（JADA）公認スポーツファーマシストを含む薬剤師は調剤業務の合間にスポーツ選手からの医薬品・サプリメント使用の問合せに対応しなければなりません。更に、禁止表国際基準の内容は毎年更新され、薬剤師は常に最新情報の収集に努めなければなりません。そのような状況下、薬剤師にとって有益な情報を発信できると考え、学術大会で分科会の開催と口頭発表を行いました。

分科会11「アスリートにとって大切なものは」について、4名の演者を迎え、座長を日本薬剤師会常務理事亀井美和子先生と共に努めました。JADA専務理事浅川伸氏からは世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の最新動向と題した講演をいただき、サプリメントの認証について、近々JADAから分離された体制で新たな枠組みを構築し運営するお話をいただきました。金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科准教授杉林孝法氏からは選手・指導者の立場から医療者に望むことと題した講演をいただき、自身が初めてドーピング検査に呼ばれて控室に行った時「君も一流の仲間に入ったね」と先に控室にいたアスリートから祝福されたお話をいただきました。愛媛県薬剤師会アンチ・ドーピング特別委員会副委員長足永貴義氏からは2017愛媛国体での経験談と題した講演をいただきました。東京都薬剤師会アンチ・ドーピング活動推進

ワーキンググループ委員長小林百代氏からは東京2020に向けての活動状況と題した講演をいただきました。この分科会内容について、10月11日付の健康産業流通新聞第978号の2面にピックアップ記事として掲載されました。

口頭発表13（スポーツファーマシスト・アンチドーピング1）での口頭発表（演題名：ヒゲナミン含有医薬品・食品を摂取したアスリートはドーピング違反となるか）は、本学術集会ではあまり多くない倫理審査委員会の承認を得て、人体への禁止物質投与実験に関する内容です。この発表をきっかけに、他学会でのドーピング問題シンポジウムでの講演依頼が来ることになり、本学術集会で発表できたおかげと喜んでおります。

最後に、予想通り、参加者が多く、スタッフとして会場運営に携わった石川県薬剤師会会員の薬剤師の方々が大変ご苦労されておりました。それでも遅滞なく運営が進み、皆様の力量に「なるほどと頷く」と共に心から感謝いたします。

第51回日本薬剤師会学術大会金沢スタッフ

運営委員会

委員長	中森 慶滋	
副委員長	吉藤 茂行	柏原 宏暢
	三浦 智子	崔 吉道
	橋本 昌子	
委員	澤野 和彦	村田世里子
	松田 泰美	西上 潤
	地野 幹子	直田 弥丈
	綿谷 敏彦	乙田 雅章
	北嶋 浩成	山崎 敏誉
	高山 成明	森戸 敏志
	石浦祐喜子	崎田 敏晴
	金田 孝子	小林 由明
	高林 大輔	今庄 恵子
	佐倉 有紀	中村 安博
	高田 泉	中島 登
	竹端 裕	車谷 勝行
	下野 啓介	丹羽 靖子
	笠原 友子	原 将充
	澤野 輝夫	

査読委員会

委員長	崔 吉道	
副委員長	吉藤 茂行	石川 和宏
委員	中森 慶滋	柏原 宏暢
	三浦 智子	橋本 昌子
	澤野 和彦	村田世里子
	西上 潤	直田 弥丈
	綿谷 敏彦	乙田 雅章
	高山 成明	森戸 敏志
	今庄 恵子	石崎 純子
	菅 幸生	渡辺 誠治

制作委員会

委員長	崔 吉道	
総務・財務	三浦 智子	澤野 和彦
	渡辺 誠治	
会場・運営	橋本 昌子	綿谷 敏彦
	坂野由宇希	
式典・懇親会	柏原 宏暢	直田 弥丈
	今庄 恵子	
学術	吉藤 茂行	森戸 敏志
	高山 成明	石川 和弘
広報・展示・セミナー	柏原 宏暢	乙田 雅章
	西上 潤	

提案：糖尿病連携手帳を利用した薬局薬剤師による糖尿病療養支援

石川県薬剤師会 副会長 橋本 昌子

【はじめに】

我が国では糖尿病とその予備軍が2,200万人を超え、その合併症である心血管疾患、慢性腎臓病（CKD）や透析患者が増加し、医療財政を圧迫する社会・経済的な問題となっている。また、糖尿病の合併症も多様化・重症化し、多様な診療科に多くの糖尿病患者が受診する現状となっている¹⁾。

糖尿病治療の最終目的は、合併症を発症、進展を抑制し寿命を全うするために、患者個人の行動変容を促す事が不可欠だと考えられている。その治療手段として患者教育が重要視されており、糖尿病の療養指導を実施する際には、チームアプローチにより患者のセルフケア行動を支援することが推進されている。患者のセルフケア行動を支援するためには、病院・クリニックの糖尿病教室や教育入院、その後のフォローとして保険薬局を含めた外来での関わりが重要になってくる。

これらの対策として石川県では、他県に先駆け、10年以上前から医師（内科、眼科）、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、行政をメンバーとする石川県糖尿病対策会議を開催し、「糖尿病の重症化予防対策」を活発に推進してきた。しかし、再度教育入院を余儀なくされるケースも見受けられるので、患者が処方箋を持参し調剤、服薬指導を受ける保険薬局での関わりを強化すべきだと考えた。

【目的（目標）】

糖尿病連携手帳を利用し、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携による糖尿病教育入院患者のカンファレンス参加から退院後の薬局での支援体制を構築する。

【アウトカム】

薬局薬剤師の介入（件数）、介入患者（人数）、取り組み事例、HbA1c値の推移

【対象】

教育入院した患者で、同意が得られた患者

【方法・手順】

- 1) 対象患者1名でトライアル（3カ月程度）を行う
- 2) 石川県糖尿病対策会議にて取り組み内容について説明
- 3) 石川県薬剤師会が研修会を開催（糖尿病教室の内容、入院時のカンファレンスの内容、糖尿病連携手帳の利用方法等）
- 4) 薬局薬剤師のすること
 - ①対象の糖尿病教育入院患者の薬局でのかかりつけ薬剤師になる。コーディネーター（または病院薬剤師）から患者の治療方針などの情報提供を受ける。
 - ②入院中に、あるいは退院後の来局時に患者に治療目標について説明する。
 - ③糖尿病連携手帳を渡して、記載内容、方法を説明する。

HbA1c値、糖尿病食、運動メニュー、シックデイ時の対応、低血糖時の対処方法、等
 - ④薬局にて、今後支援を行うことの説明と「同意」を得る。
 - ⑤教育入院で学んだ内容の再確認
 - ⑥生活上できること、できないことの確認。目標の確認をとる。
 - ⑦血糖コントロールの確認（目標のチェック）
 - ⑧最新の検査値を知る。（該当病院または患者から）

- ⑨服用状況、副作用などを質問し、回答を得る。
- ⑩必要時に、食事内容や運動内容の確認（目標のチェック）とアドバイスをを行う。
- ⑪必要時に相談した内容等を医師（病院又はかかりつけ医）へフィードバックする。
- ⑫患者ごとの療養支援結果の報告書を作成
- ⑬石川県薬剤師会へ報告書を提出

【各かかりつけ薬剤師が準備し実践すること】

- ①患者とかかりつけ薬剤師の契約
- ②糖尿病連携手帳（薬局ごとに準備する、病院と連携）
- ③糖尿病教育入院の内容記載書（基本的なもの：薬剤師会で準備・配付したい）

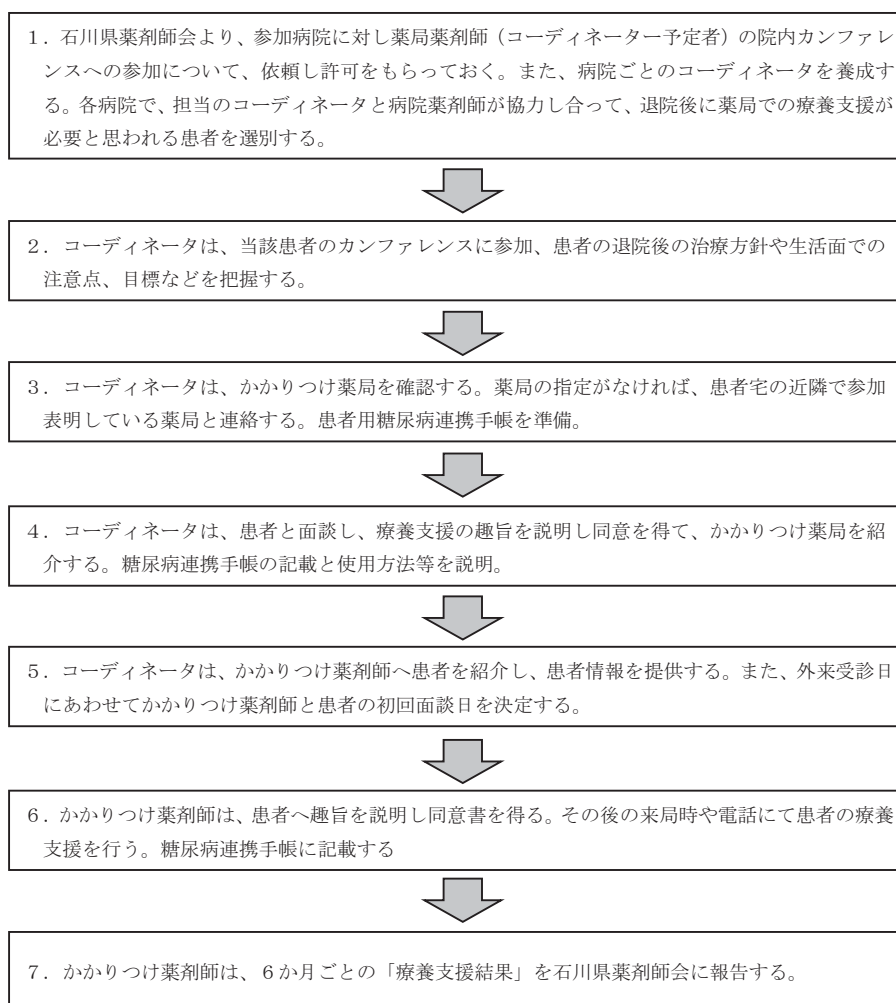
- ④患者への指導書（食事や運動を中心に日常生活の指導）
- ⑤患者への説明と同意（文書：薬剤師会で準備・配付したい）

本提案を実現するため、本会会員（病院薬剤師）が所属している病院で実証トライアル（3カ月程度）を行う必要があります。薬剤師会のかかりつけ薬剤師を支援する委員会等で提案し検討していきたい。

参考文献）

- 1) 日本糖尿病学会第三次対糖尿病5ヵ年計画（2015）

糖尿病療養支援フローチャート



患者さまへ(説明・同意書)(例)

「糖尿病連携手帳を利用した薬局薬剤師による糖尿病療養支援」について

1. 目的

糖尿病は、コントロールが悪いと網膜症や神経障害、腎臓病など生活に支障をきたす合併症をおこしやすい病気です。自覚症状がないため、知らないうちに悪化することもあります。

糖尿病の合併症や、悪化を予防するためには、専門病院の教育入院退院後も、かかりつけ医、かかりつけ薬剤師が協力し、きめ細やかなフォロー体制が必要です。

糖尿病連携手帳を利用して、患者さまの治療方針を医師、薬剤師が理解し、退院後、薬局でかかりつけ薬剤師が調剤や服薬指導とともに療養支援をすることにより、患者さまの病院やかかりつけ医と協力し、患者さまが糖尿病の治療を継続し、血糖コントロール維持、合併症の予防・早期発見・治療することを目的とします。

2. 運用方法

①薬剤師が、糖尿病教育入院時のカンファレンスに参加します。

②情報提供書や共同指導により、患者さま本人だけでなく、かかりつけ薬剤師も退院後の治療方針を理解します。

③糖尿病連携手帳に、1日の食事の指示内容、(総エネルギー量(1日のカロリー)炭水化物(g)体重、食塩など)、目標とするコントロール値や注意事項など療養支援に必要な事項を記載し、薬剤師が確認をさせていただきます。(注:入院中がのぞましい)

④患者さまご自身で記載できるところの記載をお願いします。

⑤受診、来局の際には、糖尿病連携手帳を確認し記載します。

⑥必要に応じて食事内容や運動内容などを聞きとりさせていただきます。

⑦必要に応じてかかりつけ医や専門医へ連絡し、治療に反映させていただきます。

⑧月に1回(6か月間)薬局にて、かかりつけ薬剤師が療養に関するアドバイスやカウンセリングをさせていただきます。

3. 薬局での確認内容

①糖尿病教室の内容の理解を確認させていただきます。(食事、運動、薬物療法、検査値、合併症など)

②内容の確認により、治療に前向きに取り組めるように指導いたします。病院(またはかかりつけ医)には、必要に応じて報告させていただきます。

③連携手帳により確認させていただく主な項目は、

目標 HbA1c 値

目標とする食事摂取カロリーと日々の食事内容やカロリー

合併症のあり・なし、およびリスク

併存症(糖尿病以外の病気や薬について確認いたします)

体重、血圧等

血液検査結果(検査時)

眼科受診結果(受診時)

④その他の相談、質問や気づいたことをお聞きします。

⑤病院の受診と関係なく、いつでも薬局で相談(来局・電話等)することができます。

あなたのかかりつけ薬剤師

薬局名	
薬剤師名	
連絡先	住所) 電話) メール)

薬局薬剤師による糖尿病療養支援の説明を受け、支援を受けることに同意します。

年 月 日

ご氏名(自署) _____

石川県薬剤師会災害支援活動報告

災害支援活動委員 金沢支部 津田 靖久

その1

「平成30年度 石川県防災総合訓練」(災害用医薬品・医療機器等搬送訓練) 参加報告

第59回石川県防災総合訓練は石川県及び宝達志水町主催、国土交通省北陸地方整備局共催のもと、11月25日(日)、地域住民参加型で陸・海・空自衛隊、海上保安部、消防、警察等102の機関、約3,800名の参加にて開催された。主会場の宝達志水多目的グラウンドではヘリコプターの離着陸訓練、バルーンシェルターの設置、炊き出し(テニスコートではドローンを使った訓練)。総合体育館では避難所設置に伴う各種の訓練が行われた。石川県薬剤師会は今回で3回目の参加、宝達志水総合体育館にて訓練を実施した。

□ 訓練想定：11月25日午前9時頃、邑知潟断層帯、マグニチュード7.6(震度6強)、宝達志水町中心に被害

□ 訓練：9:00 発災確認、訓練開始
9:10 石川県：災害対策本部設置
・薬事衛生課→石川県薬業卸協同組合・石川県医療機器協会
「災害時医薬品・医療機器に搬送依頼」
・薬事衛生課→石川県薬剤師会「派遣依頼」→災害対策本部→薬剤師派遣→体育館にて訓練開始

□ 実施内容：(担当者)

①災害用医薬品・医療機器等輸送訓練(羽咋支部：久世・県薬：柏原)
・輸送された医薬品・医療機器等の検品作業及び仕分け

石川県からのリスト表にて医薬品・医療機器の検品、医薬品・医療機器の管理区分ごとに仕分ける

(医薬品には劇薬・向精神薬(ペンタゾシン等も含む)、医療機器には高度管理機器(パルオキシメーター等も含む)

・医薬品・医療機器の管理として受払簿の作成

②医療救護所等での常用薬等の聞き取り、お薬相談(羽咋支部：向瀬・金沢支部：津田)

・ポスター・リーフレットにて「避難時のお薬管理」・「お薬手帳の重要性」等の情報発信

・お薬相談実施(心臓病の子供を持つ母、糖尿病患者、高血圧患者からの災害時対応相談あり)

・災害弱者への対応も検討(「外国語対応のためのツール集」等の使用)

③経時的活動記録(クロノロ)、知事への説明(羽咋支部：笠原・県薬：直田)

・配送者から情報収集、天候の変化、道路状況(津波・洪水・土砂等)、信号機(停電)等の聞き取りを行い、情報の共有化を行う

・谷本知事へ薬剤師会の取り組み(災害時の薬剤師の役割・必要性等)紹介

□ 今回の訓練を振り返って

訓練①、受払簿の作成に時間がかかる、PCを利用し共通フォーマットで協力しあって入力できる仕組みが必要。今後は払出作業のために、依頼書・払出票等を

石川県と検討する必要あり。

訓練②、薬剤継続の必要のある患者さんには、日頃より災害時の対応について指導する重要性を感じた。

訓練③、今後は対策本部や他機関等とも連絡をとり、より現実的な情報管理が必要と感じた。

今回の訓練では災害地区の羽咋支部の先生方に参加いただき、スムーズな訓練が行えました。本当にありがとうございました。(次回も訓練地区の先生方の参加・協力宜しくお願い申し上げます。)

P.S. 訓練期間中は総合体育館の災害支援型自動販売機のお茶・ジュースは無料でした。



平成30年度石川県防災訓練にて 津田 靖久

その2

平成30年度 石川県災害薬事コーディネーター研修会」参加報告

平成30年12月9日(日)、石川県地場産業振興センター研修室にておいて、国立病院機構 三重医療センター 鬼頭 大輔先生(DMAT薬剤師)を講師として「石川県災害薬事コーディネーター研修会」が開かれました。鬼頭先生から、「災害時、医薬品の供給や薬剤師派遣の調整をすることで、傷病者を助けるための環境を整える必要がある、そのための研修です」と研修の

意義・目的の説明があり、研修会がスタートしました。

研修は下記の内容で、項目ごと、講義・グループワーク・実技が行われました。

- ・わが国の災害医療体制、災害薬事コーディネーターとは
- ・保健医療活動チーム(DMATとは)
- ・災害対応の原則(CSCA)
- ・トリアージ(TTT)
- ・災害診療記録、薬事関連特別措置
- ・EMIS(モニタリング)
- ・避難所アセスメント、J-SPEED
- ・衛生電話
- ・情報管理、経時活動記録(クロノロ)
- ・薬事対策本部立ち上げから活動
- ・石川県災害薬事コーディネーターのあり方

講義では大変難しい専門用語やツールを初心者の私たちにも大変わかりやすく、また、「石川県薬剤師会災害対策マニュアル」(注:本会のHPにアップしています)に沿った内容で説明いただきました。

今回の参加は28名、薬局薬剤師・病院薬剤師・石川県職員(石川中央・能登中部保険福祉センター)・医薬品卸からあり、その中には災害支援の経験者もいたので、グループワークではそれぞれの立場・経験からの話が聞け、関係機関との連携の重要性が理解できました。

実技ではホワイトボードでの経時的活動記録(クロノロ)、J-SPEED集計、衛星電話の設置が行われました。

2018年石川県内では豪雪・台風による障害・被害がでました、いつ被災地になるかわかりません、その時ためにも薬剤師が災害時の対応の原則を理解し、行動できる必要があると感じました。

日本薬剤師会「次世代薬剤師指導者研修会」に参加して

金沢大学附属病院 薬剤部 坪内 清貴

平成30年2月11日、12日に、日本薬剤師会が主催する次世代薬剤師指導者研修会が東京都のフクラシア丸の内オアゾホールAにて開催されました。『病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師の養成に向け、地域の実情に応じた研修の企画・指導や、チーム医療の実践に繋げることでできる地域の指導的立場を担う薬剤師(病院・薬局)の育成』という目的のもと、各都道府県薬剤師会から薬局薬剤師と病院薬剤師が1名ずつ参加する形で行われ、総受講者数は99名でした。

現在の社会的情勢における薬剤師の役割や、チーム医療において薬剤師に必要とされる薬学的知識や技術について、数々の著名な先生方による講義で学ぶ二日間は非常に有意義なものでした。薬局薬剤師との交流を図ることで互いの業務への理解を深めることができたのはもちろんのこと、他県の薬剤師との交流から各地域における医療の現状を知り、非常に参考になるとともに、良い刺激にもなりました。

以下に、受講させていただいた講義についていくつかご紹介いたします。

〈主な講義の概要〉

■病院薬剤師業務の現状と課題

(日本病院薬剤師会 副会長 川上 純一 先生)

- ・チーム医療の実践：医療・医薬品安全管理に向けた薬剤師・病院薬剤部門の役割が高まっており、客観的視点からの成果

を目に見える形(エビデンス化)にすることが必要。

- ・病院・診療所と薬局との情報共有：電子カルテの利用が発展し薬剤師による薬学的知見に基づく指導記録を他者が見られるようになることで、さらなる診療の質の向上に繋がるという議論に進むことが期待される。

■地域包括ケアシステムの実現に向けた関係者の連携 ～薬剤師に期待すること～ (陶病院 院長 大原 昌樹 先生)

- ・在宅医療において、薬剤師はそれぞれの患者の生活や暮らしを理解した上で、服薬支援や副作用の評価を行ない、服薬指導を実施するという役割が期待される。専門職間の連携をスムーズに進めるため、退院時カンファランスなどを重ねながら顔の見える関係の構築を目指したい。

■災害時における活動原則と薬剤師の支援活動

(日本災害医療薬剤師学会 理事 渡邊 暁洋 先生)

- ・災害時における薬剤師の役割は、DMATなど医療チームへの参加、患者受け入れ病院での対応、避難所での服薬指導、医薬品の供給や管理など、支援する場面や場所に応じて多岐にわたる。継続的な災害教育や研修が求められる。

■臨床検査値を活用した薬学的管理

(千葉大学医学部附属病院薬剤部 薬剤部長 石井 伊都子 先生)

- ・薬剤師による薬学的管理が十分に実施されるため、千葉大病院では院外処方箋に検査値の表示を開始した。これにより、禁忌症例への投与や過量投与の回避に繋がる疑義照会が増加し、検査値の推移や患者から聴取した症状を踏まえた疑義照会が行われるようになるなど、チーム医療型の地域連携という形にまで発展してきている。

■ポリファーマシー対策の指針の解説と活用方法について

(東京大学医学部附属病院 老年病科 秋下 雅弘 先生)

- ・安全・安心で効率的・持続可能な高齢者医療が行われるために、ポリファーマシー対策として、予防薬のエビデンスの妥当性、対症療法の有効性、薬物療法以外の手段についての評価を行い、個々の病態と生活機能、生活環境、意思・嗜好などを考慮し治療の優先順位を検討することが必要である。

石川県薬剤師研修センターレポート

研修センター長 石川県薬剤師会 副会長 吉藤 茂行

現在のG08認定薬剤師数は、703名です

G08認定薬剤師703名の内訳 (平成30年12月末)											
認定回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回			
認定者数	406名	47名	55名	84名	79名	14名	6名	12名			
種類	新規	更新									
☆ 認定回数5回以上は、全員G01日本薬剤師研修センターからの移動者です											
☆ 認定者のうち、石川県内在住者は531名、県外在住者は172名です											
☆ 県外在住者のほとんどは、新規認定者です											
年度別認定者数											
平成年度	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
認定者数	35名	97名	108名	126名	131名	111名	98名	140名	272名	189名	202名
☆ 認定者数は年度ごとに薬剤師認定制度認証機構 (CPC) へ報告したもの											
☆ 平成20年度は9月1日から、平成30年度は12月末までの認定者数											
☆ 平成28年度からの認定者数の増加は、平成28年度の調剤報酬改定「かかりつけ薬剤師」の条件に認定薬剤師が指定されたことによると思われる											

“継続は力なり！”

認定薬剤師の皆様、次回も必ず更新しましょう！

主よ人の望みの喜びよ

石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

学術大会初日9月23日、7時を少し過ぎてから日航ホテルにある石川県薬剤師会本部に行くと、みんな僕を待っていたようで「会長早く早く、挨拶！」と言われる。簡単に挨拶をするとみんな素早く各持ち場に散っていった。台風が直撃した日にも委員会を開催した。そのときの熱気と同じだ。メンバーたちはみな自信と開催にまでこぎつけたことの喜びにあふれていた。

しばらく大会本部に残ったメンバーが作業しているのを眺めていた。ついに石川県薬剤師会で一番長い一日が始まったのである。分科会は午後からなので午前は開会式と特別講演の対応にあたることになる。僕が読む挨拶文、そして福岡伸一先生の概要と著作のチェックを行う。

8時過ぎにもてなしドーム下にあるクロークや当日受付に顔を出す。ランションの当日配布に長蛇の列を見て驚く。スタッフみんなとても愛想よく振る舞い楽しそう。特別講演の先生方に渡すお土産を手にし、お手伝いをお願いしておいた学生を探す。学生たちを8時半に見つけ予定通り同行してもらおう。9時から日本薬剤師会賞受

賞者の先生方と記念撮影を行う。「金沢で受賞されたことをとてもうれしく思います。」と、先生方に挨拶をする。

県立音楽堂の控室に行く、すでにいらっしゃっているご来賓の楽屋を確認して挨拶していく。汗がなかなかひかない。扇子を取り出すのだが、扇子の下部の留め金が壊れていてバラバラになってしまっている。こんな時に扇子を確認しなかったことを悔やむがそれをうまくまとめ下部を抑えながら扇ぎ続けた。それでも汗は止まない。かといって緊張しているわけではないことは分かっていたので精神的に落ち着いている。

石川県の谷本知事が開会式に遅れてくるという予定であったのにも関わらず、開始前に到着されたことに胸をなでおろす。急いで挨拶に行くとすでにスタンバイ席に座られていた。山野金沢市長にもご挨拶を行う。心から感謝の気持ちが沸き起こっている。ご来賓の先生方も温かく大会運営委員長として僕を迎えてくれた。場内を眺めると続々と来場者が席を埋めていっている。オルガニストの黒瀬さんがパイプオルガンをさりげない音量で弾いてくれている。



J.S.Bachの「主よ人の望みの喜びよ」だ、なんて素敵な選曲だろうか。事前の打ち合わせで曲名の指定はしなかったのであるが、黒瀬さんの選曲に感動する。

開会式が始まった。スタッフに促され下手から山本会長に続き舞台へと進んでいく。トッカータとフーガ。この「チャララン」という冒頭を弾くか弾かないかもめたことがある。僕は嘉門達夫のイメージがあるので弾かないでほしいというが、黒瀬さんはどうしても弾きたいという。その意思は変えられないと思ったので僕は了承した。バッハのこの曲「トッカータとフーガ」のトッカータの部分は大きく3つに分けられているチャラランの部分とA旋律そしてB旋律である。B旋律は壮絶なおかつリズムカルな部分でカッコいい。ジャズピアニストのオイゲン・キケロもここをスイングしながらジャズに仕立てているほどだ。A旋律を飛ばすとちょうどいい時間配分になるので、ちゃららんと弾いた後、A旋律を抜いてB旋律でお願いしたいという。しばらく考えていた黒瀬さんは「わかりました」と了承してくれた。

そして本番。「ちゃららん」で始めると場内からあまりのパイプオルガンのイメージ通りだったためかかすかなどよめき聞こえる。そして毅然とした黒瀬さんは

B旋律を弾き出した。カッコいい、素敵だと思う。これで大会の品格をあげることができたと黒瀬さんに感謝する。

崔副会長が大会宣言を行う。他人事のように僕は舞台の上から客観的にそれらを眺め楽しんでいる。山本会長のあいさつを場内を眺めながら聞いていた。そして僕の挨拶。能村元副会長と中村前会長がいらっしゃる場所を確認する。ちゃんと最前列に座っていただいていた。挨拶文を読み上げ大会実現に功労のあった能村元副会長と中村前会長を紹介する。この時拍手をどう呼び寄せようかといろいろ考えたのであるが、ぱらぱらと何名か拍手すればおのずと場内の観客は拍手するだろうということになった。拍手は自然に湧き上がってきた。能村元副会長と中村前会長は予定どおり立ち上がって拍手にこたえてくれた。これを見てなんて素敵な瞬間なのだろうと思う。僕が思い描いていた通りの情景だったからだ。

そして僕の挨拶が続く。これまで何度もあいさつ文を読んだのであるが、実をいうと様々な箇所で感極まり涙につまってしまう最後まで泣かないで読んだことがないのだ。しかし前日のリハーサルが開始される前の午前中は淡々と読むことができた。それで自信をつけたのもあったのだろう。本番の「石川県薬剤師会の喜びとするところ



黒瀬恵さんが演奏するパイプオルガン

です」では感動を抑えることができた。無事終わった。自分の言葉で言い感情をこめていたつもりなのだが、どうだったのだろうか。席に戻る。

ご来賓の挨拶が続く。なんだか夢を見ているようだ。知事の挨拶。昨年の12月に知事の選挙の推薦状をお持ちした。知事選挙の争点は多選であった。そのため自身の年齢を気にされているのではと思った僕はこう切り出した。「実は昨日ミーシャ・マイスキーという世界最高峰のチェリストを県立音楽堂に聞きにいつてきました。69歳の彼のチェロからは素晴らしいBachを聞くことができました。谷本知事さん72歳。今が一番素晴らしいハーモニーを聞かせてくれる時だと思います。どうぞ頑張ってください。」すると知事は真顔になり「いきなり何を言い出すんかと思った。そうか。ありがとう。」と嬉しそうに右手を差し出した。

そして山野金沢市長の挨拶。大会の運営の企画に悩んでいた時金沢21世紀美術館を会場の一つにしてはどうだろうかと考えた時があった。市長にFacebookでメッセージを送った。しばらくして市長から担当の観光課長を紹介するので21世紀美術館の副館長と会って話をしてほしいと、メッセージが届いた。結果的には交通の便とその効果を考えると見送られたのだが、金沢の街を生かした企画や案もいろいろ検討された。

今年6月に就任された安田医師会会長の挨拶。先生とはこれまで何度も会長に就任される前から簡単に挨拶程度ではあるが面識はあった。そんな僕は温かな安田会長の人柄に魅了されている一人である。

次僕はなんだっけ、なんだっけ・・・？特別記念講演かな、と思った時次回開催県の薬剤師綱領楯の引継ぎだと思い出す。それほど僕は緊張せずに開会式を楽しんでいたのだ。山口県の中原会長とはこれまで何

度もいろんなところで大会の進捗状況などを、お互い大会開催としての苦労を話し合ってきた。「綱領楯を引き渡す時なにか話した方がかっこいいからそうしますね。」と前日のリハーサル時に決めていた。綱領楯を受け取り会長に渡した時オフマイクで「山口県での大会のご成功をお祈り申し上げます」と言った。無事楯は引き継がれ我々石川大会は次の大会へと流れを作ることができた。

開会式は無事に終わった。知事が帰られるというので幹部4-5人でお見送りに出る。一階の車寄せに知事の公用車は待っていた。知事は貫禄たっぷりに後部座席に乗り、お辞儀をされて帰っていかれた。いそいで楽屋前の広場まで来ると福岡先生がいらっしゃっているとされる。舞台では日本薬剤師会賞の授賞式が行われていた。九谷焼のお皿にお礼ののし紙を付けた紙袋を持ち控室へと急いだ。福岡先生は僕がテレビやYoutubeで見たそのままの雰囲気であらっしゃった。名刺を交換し記念撮影をした。簡単に打ち合わせをすると舞台の様子を見に行った。舞台では能を舞っていた。

午後からの特別講演でお話をされる長尾先生とは楽屋で死生観について持論を展開しお互いの心に触れ合うことができたためか楽屋は大いに盛り上がった。後日長尾先



谷本知事のあいさつ

生から著書を5冊ほどお送りいただいた。その後長尾先生がご講演へとステージに上がられたのを見て、平野加奈さんの楽屋に挨拶に行く。平野さんはいつものように芸術家らしい雰囲気なたたえて椅子に座っていた。彼女はドビュッシーの月の光を弾いた後、ゴルトベルク変奏曲をセレクトして弾き、最後にベートーベンの月光を弾きたいのですがいいですかという。それを聞き素敵なコンサートになることを予感する。クラシックに慣れ親しんでいない人たちにも十分楽しんでもらえる選曲だ。楽屋には一台のアップライトのピアノが置いてあった。長尾先生のご講演を袖のマジックミラーから除き見ていた時、平野さんがピアノを弾いているのがかすかに聞こえてきた。ゴルトベルクだ、思い付きで引いているようで、月の光だと思ったら、またゴルトベルク、そして月光の第三楽章、曲ではない指の練習をする音階。とても贅沢な時間が流れる。

楽屋に再び入った僕は平野さんには舞台で僕が野暮ったく細かな紹介はしない方がいいでしょうという。一流のクラシック演奏ではMCも何も入らないのが普通だからだ。あるとすればマイクなしで演奏者がアンコールの曲名を言う程度。長尾先生のご講演が終わり特別企画の演奏会が始まろう

としていた。観客席はざわついている。袖ののぞき窓から客席を見る。席を立ち帰ろうとする人たちがいる。しかし、8割以上の人たちは座席を動かない。しかもどんどん観客が入ってきているのが見える。ほっと胸をなでおろす。これだけ多くの観客の前で演奏していただければ平野さんにも申し訳が立つと思う。

舞台上上がり平野さんを紹介する。マイクをマイク置き場に置く。ではよろしくお願ひしますと舞台を去った。観客の皆さんはゴルトベルクを聞いて何を思ったのであろうか。30変奏のうちいくつかを時々飛ばしているようで譜面をめくっている。素敵な瞬間だ。それらを舞台のそでで見ている。

前後のARIAはもちろんですが最後の第30変奏はぜひともお願いします。この変奏はシュ・シャオメイが本の中で語っているように人生への賛歌のように思えるのです。とメールに書くと、「もちろん第30変奏は弾きますよ。」とメールには書かれていたのを思い出す。そして再びARIAが聞こえてきた。

18時近くになったので懇親会会場に行こうとしたとき、ベートーベンの「月光」が始まった。なんてまろやかな演奏なのだろうと思う。平野さんのまさに本領発揮である。「素敵だ」と思う。観客席に後ろから



憧れの福岡伸一先生

入り第三楽章まで聞いた。その後スタッフシャツに着替えて懇親会会場へと急いだ。後日、平野さんからしっとりとしたお礼のメールが届いた。平野さんも今回のコンサートは喜んでいただけたようだ。

懇親会で歓迎のあいさつをし、アトラクションとして演奏をお願いしたジャズバー

River Sideのボーカル篠崎ママから無理やりThere will never be another youを歌わされた。懇親会会場を後にした僕は同行の学生に指示され大学同窓会会場を7会場回った。

そして石川県薬剤師会にとって一番長い日は終わったのである。



会場はどこも大盛況であった



金沢を代表するジャズボーカリスト篠崎文さん



山口県薬剤師会の次回開催県挨拶の壇上に中原会長から上がってほしいと言われた

入場無料
事前予約不要
粗品進呈

平成30年度 県民啓発講座

県民のための 健康講座

平成31年 **1月20日** 日
午後1時～4時

ANAクラウンプラザホテル金沢 3階 鳳の間
〒920-8518 石川県金沢市昭和町16-3 TEL.076-224-6111

第1部 薬を安心してのむために
●ビデオ上映 ●シンポジウム「知っていますか? クスリの正しい使い方」

第2部 「最期の時間の過ごし方」
～自分の最期の人生をどのように迎えたいか
一緒に考えてみましょう!～

講師 東京大学大学院
薬学系研究科 薬学部研究員 **長谷川フジ子氏**

●薬学博士 ●医療経営学修士(h-MBA) ●医療経営コンサルタント
●スポーツファーマシスト ●介護支援専門員
■著書:「薬剤師のための英語対応ブック」(共著、一般財団法人松本財団)

|| PROFILE ||

- ・大阪薬科大学、国際医療福祉大学大学院卒。
- ・薬剤師として10年間、病院、調剤薬局での経験を経て、株式会社スズケンの管理薬剤師、医療情報スペシャリストとして17年間勤務。
- ・50代のときに国際医療福祉大学大学院に入学し、学位を取得。
- ・現在は、サクラグループホールディング株式会社 会長付学術顧問、また一般財団法人松本財団のファーマスーティカルアドバイザーとして、海外の医療事情調査や文化・人的交流などグローバルに活動。最近では、東京大学大学院 薬学系研究科 薬学部研究員並びに国際医療福祉大学大学院 非常勤講師として研究と後輩育成にも携わっている。
- ・研究テーマは、「医療のIT化～医療製品のトレーサビリティと医療安全」、「ヘルステックにおける薬剤師業務の在り方」、最近のテーマとして、「生きがい(kigai)のある人生を送るために必要なこと」、オランダのヘルステックを参考に研究を進めている。

特別講演



■主催/公益社団法人石川県薬剤師会 ■共催/一般社団法人金沢市薬剤師会 ■後援/北國新聞社

原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇用紙や宛先等は下記のとおりです。
用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ
メ切：特に設けていませんいつでもどうぞ
宛先：金沢市広岡町イ25-10
公益社団法人石川県薬剤師会内

その他：採否は編集係におまかせください。なお、いただいた原稿はお返できませんのでご了承ください。

「県薬レポート」編集委員会
委員：中森 慶滋、三浦 智子、西上 潤
橋本 昌子、山崎 敏誉、吉藤 茂行
石川県薬剤師会ホームページのURL
<http://www.ishikawakenyaku.com/>
会員専用パスワード
ID:ipa01 password:ipa01(いずれも半角入力)
eメール・アドレス
kenyaku@plaza-woo.jp